

手の届くロールモデルを見つけよう！ ～私たちの仕事と私事～

Let's Find Our Original Role Model within Reach: Our Opinions on Work and Lifestyle

成田麻美子 Mamiko NARITA

女性研究者の人数がなかなか増えないことから、制度を整備することで支援する試みが多数なされております。制度によって解決する問題もありますが、制度を利用するに至るまでの道のりも険しいのではないかと感じています。

男性社会であるこの業界にいて、節目節目で「いつ辞めるの？」ということ、言葉は違えども問われたことの無い女性はほとんどいないでしょう。周囲から、とくに身近な人たちから問われたとき、仕事を続ける理由を考え、周囲の言葉が強いと、働き続ける強い意志がない限り、周囲の希望が自分の考えとなり辞める選択肢を採ることになるでしょう。これには社会的な側面も多々ありますが、理由の一つに私たちがロールモデルを満足に描けていないことがあげられると思います。さまざまな節目に臨むとき、ロールモデルの存在は大きな助けになります。ロールモデルの候補として険しい道を切り拓いてくださった偉大な先輩方がいらっしゃいますが、偉大すぎるために、能力も環境も違う、と遠くに感じ目標とすることが難しく思えます。それならば身近に素敵な方がいらっしゃるというのがいいのですが、そのような環境は少ないのが現状です。そこで、ご自身のロールモデルをイメージするときの参考になればと思い、私の近くにいらっしゃる素敵な先輩、後輩が仕事（ワーク）と私事（ライフ）についてどう考えどう取り組んできたか聞いてみました。

《ワーク》

研究という仕事は、大学の頃から実験が好きで続けたかったから、と皆さんが前向きな理由で選んでいます。好きなことをしているという前向きな考え方に加え、良い結果が出たり、論文に名前が載ったり、開発品が実用化につながったり、自分の成長を感じる出来事が続けるモチベーションになっています。もちろん辛いこともあり、実験が



(株)豊田中央研究所有機材料研究室 (480-1192 愛知県愛知郡長久手町大字長湫字横道41-1)・研究員、博士(工学)。2000年東京工業大学総合理工学研究科専攻博士後期過程修了。専門は高分子化学、有機化学。

思いどおりに進まなかったり結果が出なかったり、個人的なミスで「これだから女性は…」と評価される、女性が少ないために起こる辛いこともあります。それでも理解してくれる方たちもいらっしゃって、そういう方々との出会いがあり、支えられて働き続けることができていると感じています。

《ライフ》

大学の研究室にいたころは、ライフはワークであり、ワークが充実していればライフも充実していると考えていました。しかしさまざまな節目がライフのことを考える大きなきっかけになります。ライフの部分での充実度がワークのパフォーマンスに大きく影響する、ということはいち早く察知しているのが先輩後輩方の魅力でしょう。ワーク/ライフの割合を伺ったところ、平日は目一杯仕事をして休日は目一杯遊ぶ派、平日は決めた時間内で効率的に仕事を行い、それ以外の時間と週末を自分と家族にあてる派など、人それぞれのライフスタイルに合わせてバランスを考えた時間を配分しています。共通しているのは、ライフの時間をしっかりと考えていること。ワークとはまったく違う環境づくりを意識して、おいしい食事、楽しい運動、お気に入りの土地へ小旅行、ワークでは出会えない人々との交流など、わくわくできることを見つけてワークへのエネルギーを蓄えています。

先輩後輩たちの意見の中から、ワークとライフは二者択一ではなく、両者をバランスよくすることで初めて自分らしくいられる、という考えが見えてきました。ワークでは好きなことを続けることや人とのつながり、ライフではワークでは得られない経験、これらのすべてを大切にすることで輝けるのだと思います。

ロールモデルは知人、本、映画、どこからでも見つけることができます。これから働く皆さんも、女性の少ない環境で苦戦している皆さんも、仕事も私事も素敵にこなすロールモデルを見つけだして、自分の意志で将来をつくり上げていってください。

最後になりましたが、私の問いかけに答えてくださった皆様、ありがとうございました。